

# 価値創造モデル

JX 金属グループは、自社が解決すべき社会課題を認識し、価値創造モデルを継続的に推進することで持続的な成長と社会課題の解決を目指しています。

## 注目すべき社会トレンド

### 先端素材に対するニーズの拡大

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、データ社会の進展が加速し、スマートデバイスや通信インフラなどの需要が増加
- 半導体などの供給不足が顕在化し、その解消のため、素材に対する需要が急増

### 気候変動対応の世界的な加速

- 世界中で環境問題が顕在化している中、グローバル企業は、気候変動への対応、その中でも特に脱炭素に対する具体的行動を加速

### 資源不足・枯渇の深刻化

- 消費資源量の増加に伴い、良質・安価な資源における獲得競争が激化
- 未来のインフラを支える非鉄金属への注目と枯渇懸念の高まり

## 事業活動(ビジネスモデル)

### インプット(投入資本)

財務資本

知的資本

人的資本

製造資本

社会・関係資本

自然資本

### 長期ビジョン

「装置産業型企業」から「技術立脚型企業」へ転身し、激化する国際競争の中にあっても高収益体質を実現するとともに、SDGs\*で目指す持続可能な社会の実現に貢献する

#### フォーカス事業 成長戦略のコア

先端素材や技術立脚型リサイクル事業など、技術による差別化によりグローバル競争で優位に立てる事業

- ▶ 少量多品種かつ高利益率の製品・技術ラインナップを常時揃える体制を構築し、収益規模の拡大を図る

#### ベース事業

資源事業、製錬事業など、生産効率のさらなる向上などにより競争力を高め、組織基盤を強固にする事業

- ▶ 徹底的な効率化や資源ポートフォリオの見直しなど、構造改革を実行して一定の収益規模を維持する

### マテリアリティ ▶ P37

当社グループが置かれている事業環境や社会からの要請の変化を踏まえ、優先的に取り組む6つの重要課題(マテリアリティ)を設定し、具体的な活動計画に落とし込んでいます。

- 地球環境保全への貢献 ▶ P39
- 暮らしを支える先端素材の提供 ▶ P43
- 魅力ある職場の実現 ▶ P53
- 人権の尊重 ▶ P61
- 地域コミュニティとの共存共栄 ▶ P65
- ガバナンスの強化 ▶ P69

### 中期経営計画 ▶ P13

機能材料事業 ▶ P23

薄膜材料事業 ▶ P24

タンタル・ニオブ事業 ▶ P25

資源事業 ▶ P26

金属・リサイクル事業 ▶ P27

チタン事業 (東邦チタニウム(株)) ▶ P28

### アウトプット(製品・サービス)

圧延銅箔

半導体用ターゲット

高純度タンタル粉

銅地金

スポンジチタン

### アウトカム(創出価値)

先端素材が生み出す製品はデータ社会を支えし、豊かで便利なくらしに貢献

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

リサイクル技術により限られた資源を有効活用し、豊かさを持続性のある世界を実現

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

創業当初より「地域社会との共生」を大切にしており、国内外の各事業拠点において地域に根差した社会貢献活動を実施

11 住み続けられるまちづくりを

\* SDGs: Sustainable Development Goalsの略。2015年9月の国連サミットで採択された2030年を達成期限とする持続可能な社会を実現するための国際社会共通の開発目標。